

## 第15回 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議 議事要旨

平成23年6月29日（水）18:00～20:00

中央合同庁舎3号館 11階特別会議室

### 【出席者】

中川座長、宇野委員、三本木委員、鈴木委員、辻本委員、道上委員、森田委員、山田委員、大畠大臣、三井副大臣、津川政務官、関河川局長

### 【ダム事業の検証の検討結果について】

○第14回会議で説明を受けた千葉県の大多喜ダムは「中止」という内容であり、従来からの手順や手法等によって検討がなされた。これは、有識者会議が「中間とりまとめ」についてのパブリックコメントを行った際に有識者会議が示した考え方に沿って検討されたものであると理解できる。

○今回は、検討主体から国土交通大臣に報告された最上小国川ダム、金出地ダム、武庫川ダム、西紀ダムの検討結果について説明を受け、有識者会議から意見等を述べた。

○主な意見等は以下のとおり。

- ・武庫川では流域対策が取り入れられているが、他河川では難しいと判断されてきたものである。他河川と比較して、どのような点が異なるのか。

[武庫川においては、流域対策について市と合意し、計画に取り入れることができるようになった旨を兵庫県から聞いていることを事務局から説明。]

- ・流水の正常な機能の維持について目的別の評価を行うと、ダム以外の対策案のコストが高くなる場合があり、ダム事業に関する総合的な評価の段階で、流水の正常な機能の維持を目的から除外した検討を行うべきではないか。この点については、確かに、流水の正常な機能の維持は、ダムなど貯留する施設以外で対応することは難しいが、かんがいに限らず環境、漁業、舟運などの面で川を川らしくするものであり、この機能を維持できないということは、川が良くなならないということ

である。代替する対策に費用がかかるのは仕方のないことであり、コストを比較することはよいが、流水の正常な機能の維持と他の目的のコスト順位が逆転した場合が問題であり、それは仮定の問題であって、そのような事例が報告された時点で検討すればよいのではないか。

- ・ 検証結果を見ると、ダムや放水路は集中的に投資される一方、河道改修に要する期間は長期間にわたるように思われるが、今後の財政が逼迫する状況下で、ダムや放水路への集中投資が本当にできるのか

[例えばダムは本体工事着手まで時間がかかる場合があるが、本体工事は集中的に投資すると経済的であること、河川改修は順次下流から実施する機会が多いことなど、それぞれ事業の特性がある旨を事務局から説明。]

- ・ 西紀ダムの流域面積は非常に小さいが、このような小流域においても流水の正常な機能の維持を確保するために、ダムを建設することが気になる。この点については、流域面積の大小にかかわらず、当会議として真摯に意見を述べていくことが重要ではないか。
- ・ 兵庫県の武庫川ダムは「中止」という内容であり、従来からの手順や手法等によって検討がなされた。これは、有識者会議が「中間とりまとめ」についてのパブリックコメントを行った際に有識者会議が示した考え方に沿って検討されたものであると理解できる。
- ・ 山形県の最上小国川ダム、兵庫県の金出地ダムと西紀ダムは「継続」という内容であった。これは、基本的には、中間とりまとめで示した「共通的な考え方」に沿って検討されたものであると理解できる。
- ・ 山形県の最上小国川ダム、兵庫県の金出地ダムと西紀ダムに関しては、事業に関して関係住民等から様々な意見があることに鑑み、引き続き理解が得られるよう努力を続けることが重要である。
- ・ 兵庫県の金出地ダムについては、県から「他の治水対策案とコストに差異がない」と報告されていることに鑑み、事業費の縮減や事業効果の早期発現を図ることができるよう、今後とも検討を進めていくことが重要である。

- ・ 本日の有識者会議で各委員からあった質問等については、整理しておくことが重要である。質問等を踏まえて、検討主体に確認し、その回答を各委員に伝えることとする。
- ・ 冬期の洪水に対する対応等については、長期的な課題である。